

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100586		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム甲府山宮		
所在地	山梨県 甲府市 山宮町2904		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・明るく温かみのある雰囲気。 ・午前午後のアクティビティー。 ・毎月利用者様が楽しんで頂けるようなイベントの実施。 ・イベントの楽しい様子をご家族様等にお伝え出来るような、はなまる通信配布。 ・家庭的な美味しいお食事や楽しいイベントの食事。 ・自立支援を目指したケア。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の基本的な考えに「利用者に笑顔を提供したい」があります。食事は3食手作りとしており、利用者の要望をメニューに取り入れています。出勤した職員が必要な献立を用意して、手伝いのできる利用者と一緒に調理を行っています。こうした場面を通して利用者の笑顔が見られています。看取りに向けての体制として、夜間対応のできる医療機関との連携、訪問看護へのオンコール体制を構築しています。職員教育の一環として、各委員がテーマを決めて遂行する接遇マナー研修を、定期的に行っています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	企業理念の一つとして掲げており管理者及び職員はその理念を共有し運営、実践を行っている。	会社理念である「奉仕のこころ」誠実な気持ちで他者を愛する」の文言が事務所に掲示されています。朝礼の際に職員間で復唱されていることを管理者から伺いました。また、会社の入社式では入職者に対して理念が伝えられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり今年度は催し物への参加等は行っていない、近隣の散歩の際に近所の方とお会いした際は欠かさず挨拶をしている。	コロナ禍ということもあり今年度は催し物への参加等は行っていない、近隣の散歩の際に近所の方とお会いした際は欠かさず挨拶をしている。	自治会に加入しているが、コロナ禍は地域との関わりは疎遠になっていることを管理者から伺いました。現在は散歩時での挨拶程度になっていますが、地域からイベント等の誘いがあれば参加していく方向であることを伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。	見学に来られた方等に認知症の理解や支援の行い方などお伝えすることによって活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を適宜開催し、報告や話し合いを行い出てきたご意見等をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議を適宜開催し、報告や話し合いを行い出てきたご意見等をサービスの向上に繋げている。	コロナ禍の間は書面での開催でしたが、コロナが5類になったことで、対面での情報報告ならびに共有が行われています。推進会議のメンバーである民生児童委員から、認知症について会合の場で話をしてほしいとの依頼を頂いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお話し助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	何かあれば甲府市長寿支援室介護保険課各担当にお話し助言や指示等の協力をうけ運営を行っている。	甲府保健所が講師となり、感染症や嘔吐の処理についての研修が予定されています。行政からのアンケートに対する回答や、運営に欠かせない情報交換が密に行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性化のための委員会を適宜開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適性化のための委員会を適宜開催し、話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適性化委員会では、身体拘束ゼロを掲げています。今日まで拘束しなくてはならない事例はない事、身体拘束の事例を示した内容をマニュアル化して、職員間で研修していることを管理者から伺いました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。	虐待研修を本社が定期的に行っており虐待防止について学び事業所で虐待が発生しないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様について居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。	利用者様について居宅ケアマネ様、病院ソーシャルワーカー、施設ケアマネ、施設長にて協議行った経緯ありその時は制度は活用するまでもないとの判断を行った今後もそのような案件があれば活用できると判断に達したら活用し支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前からご家族様には分かりやすく施設での生活についての説明、疑問に思うことは質問して頂き、回答に納得をされてから契約を行っている。	契約前からご家族様には分かりやすく施設での生活についての説明、疑問に思うことは質問して頂き、回答に納得をされてから契約を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し、要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果を説明し運営に反映させて頂いている。	利用者様、ご家族様の要望や意見は可能な限り受け止め対応し、要望や意見のあった利用者様、ご家族様に対応した結果を説明し運営に反映させて頂いている。	運営推進会議に家族が参加しており、家族からの意見や要望は逐一掲示して公表しています。意思決定の難しい利用者からの意見は、家族からの聞き取りを通して、物品の購入等、必要な対応がとられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい、決まったことを実施し、実施した結果を再度会議で話し合い、より良い施設運営に繋がるように努めている。	フロア会議等で職員に考えや意見を出し合ってもらい、決まったことを実施し、実施した結果を再度会議で話し合い、より良い施設運営に繋がるように努めている。	1階、2階の各フロア会議やフロアでの全体会議、中部エリア会議、施設長会議等から職員の意見や要望が吸い上げられ、検討されています。話しやすい環境の下で、年に2回の個別面談の場が用意され、個人評価に対するフィードバックが行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。	管理者として職員が働きやすい環境を提供出来るように適宜改善や聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には可能な限り参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。	研修には可能な限り参加して頂きスキルアップに努めてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている、今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上に繋がるよう努めていく。	管理者として同業者の集まりや研修講習に参加し交流をする機会を作っている、今後は職員も同業者の交流の場に参加して頂き刺激を受けサービスの向上に繋がるよう努めていく。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない利用者様には、要望やお話を聞きながら不安な心情を和らげていくようケアを行い、ホームでの生活に安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。	入居間もない利用者様には、要望やお話を聞きながら不安な心情を和らげていくようケアを行い、ホームでの生活に安心して頂けるような関係作りを職員は努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の見学段階からご家族様には、お困りごとやどのようなホームで生活をして欲しいか等の要望をより多く聞かせて頂き、ご要望に対して提案を行いご理解を頂くように努めている、定期的にお話を重ね良い関係作りを努めている。	最初の見学段階からご家族様には、お困りごとやどのようなホームで生活をして欲しいか等の要望をより多く聞かせて頂き、ご要望に対して提案を行いご理解を頂くように努めている、定期的にお話を重ね良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、入居者様の有する能力で出来ることを第一に考え、必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応を行っている。	お困りごとをご家族様に聞き取りすることも行うが、入居者様の有する能力で出来ることを第一に考え、必要な支援を見極めそれをご家族様に提案し対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを奪わない、一緒に出来るところは行って頂く、出来ないところは支援を行っていく、以上の事を職員間で共有し、統一したケアを行うことにより暮らしを共にする関係性を築いている。	出来ることを奪わない、一緒に出来るところは行って頂く、出来ないところは支援を行っていく、以上の事を職員間で共有し、統一したケアを行うことにより暮らしを共にする関係性を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームの考え方として、ご家族様の協力は必要不可欠であり、施設の職員と一緒に支援を行って頂き、ご利用者様がより良い日々を過ごせるようにご理解を頂いている。	当ホームの考え方として、ご家族様の協力は必要不可欠であり、施設の職員と一緒に支援を行って頂き、ご利用者様がより良い日々を過ごせるようにご理解を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認を取って頂き、面会をすることに差し支えなければ来訪して頂いている、場所に関しては時期や感染症などの考慮をして外出をして頂いている。	ご友人に関しては事前にご家族様にご確認を取って頂き、面会をすることに差し支えなければ来訪して頂いている、場所に関しては時期や感染症などの考慮をして外出をして頂いている。	家族をはじめとする馴染みの人との面会は、手順に沿って実施されています。利用者からの馴染みの場所へ行きたいとの要望には、ドライブの機会を設けて対応されています。理容については、1/2の利用者は訪問理容のサービスを受けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様のお世話を焼いて下さったり、お手伝いをされることは日々垣間見える、職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。	他利用者様のお世話を焼いて下さったり、お手伝いをされることは日々垣間見える、職員は怪我やトラブルに注意しながら関係性をとりもち支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡を頂けたり、家で取れた野菜などお持ちになって下さるご家族様もいらっしゃる、その際にお話をさせて頂いている。	全ての方ではないが契約が終了してからもご連絡を頂けたり、家で取れた野菜などお持ちになって下さるご家族様もいらっしゃる、その際にお話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を受け止め、リスクも考慮し可能な限りの対応や、代替案の提案をご本人にお話をして検討している。	希望や意向を受け止め、リスクも考慮し可能な限りの対応や、代替案の提案をご本人にお話をして検討している。	利用者の意向を担当がモニタリングし、思いを吸い上げて共有しています。利用者の意向で上がっていた外食の機会を、コロナが5類になったことで、感染に留意しながら取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を把握し、利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を繋いだり、生活環境ではベッドの起き上がりの習慣等もとらえ、ベッド向きなどに反映したりし利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。	生活歴等を把握し、利用者様同士の会話の中に入り利用者様同士の関係を繋いだり、生活環境ではベッドの起き上がりの習慣等もとらえ、ベッド向きなどに反映したりし利用者様が長年の生活で動きやすい起居動作や配置などに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し、一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様に努めている。	利用者様の性格やADL、認知症の状態も把握し、一日の生活動作の安全の確保や安楽な過ごし方が行える様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月居室担当者がアセスメントを実施し、会議で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書の見直しを行っている。	毎月居室担当者がアセスメントを実施し、会議で適宜カンファレンスをおこない、利用者様の現状に即した介護計画書の見直しを行っている。	介護計画は、担当が月に1度のモニタリングを行い、アセスメントを経て、ケアマネが担当と相談しながら作成しています。会社の共有システムから、全施設のケアプランが閲覧でき、情報共有が行われています。訪問介護でマッサージに来られている方からの情報も、ケアプランに反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記録を記入し、変わったことがあれば引き継ぎと共有を行い見直しに役立っている。	日々個別に介護記録を記入し、変わったことがあれば引き継ぎと共有を行い見直しに役立っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。	新しいニーズが出た場合柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る範囲で行えることを支援し、日々の暮らしを楽しんで頂けるように努めている。	出来る範囲で行えることを支援し、日々の暮らしを楽しんで頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の際はご家族の要望もお伝えし、担当医師との関係性を良好に保ち適切な医療が受けられるよう努めている。	訪問診療の際はご家族の要望もお伝えし、担当医師との関係性を良好に保ち適切な医療が受けられるよう努めている。	かかりつけ医の受診は、家族と事業所との連携の下で継続されています。心疾患や特別な病気で、事業所の協力医による支援が行われています。また、看取りを希望する家族には、事業所の協力医に切り替えてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際は事前にご利用者の情報を伝え、突発的な体調の変化にも電話で対応して頂いている。	訪問看護の際は事前にご利用者の情報を伝え、突発的な体調の変化にも電話で対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師や病院相談員にお話を伺い対応行っている。	医師や病院相談員にお話を伺い対応行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療・ご家族・施設との3者で今後の事について情報共有を行ったうえでケアを行う。	医療・ご家族・施設との3者で今後の事について情報共有を行ったうえでケアを行う。	看取りに対するニーズが増えてきていることから、昨年の9月に、夜間対応のできる医療機関に変更しています。緊急時には訪問看護との連携を密にして、看取りの対応を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、事故報告書を作成し、その中で初期対応に問題は無かったか、事故防止委員会で検討を行っている。	事故発生時には、事故報告書を作成し、その中で初期対応に問題は無かったか、事故防止委員会で検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定。 BCPIについては本社と連携し作成中。	年に2階の避難訓練の実施をおこなっているまた今後自治会消防団との災害時の対応について連携を取っていく予定。 BCPIについては本社と連携し作成中。	事業所の立地区域は災害のハザードマップエリアの対象外になっています。避難訓練は年に2回、日中と夜間の訓練をしています。夜間訓練では、近隣職員による応援体制がとられています。今後、災害時を想定した地域との合同訓練も計画されています。	運営推進会議に地域の代表者がいらっしゃるので、災害時における避難の合同訓練の実施について検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー担当を配置し、不定期ではあるが研修を行っている。	接遇マナー担当を配置し、不定期ではあるが研修を行っている。	プライバシーの配慮として、個室の確保、一対一の入浴支援、利用者一人ひとりのADL(日常生活動作)を尊重した言葉かけが行われています。特に利用者の個室は、一つの家としての認識の上立ったマナー研修が実施されています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際や飲み物のお尋ね等、選択が出来るよう声掛けを行い、自己決定が出来るように努めている。	更衣の際や飲み物のお尋ね等、選択が出来るよう声掛けを行い、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕をもって勤務ができる環境づくり、利用者様の生活リズムに配慮をした支援を行えるように努めている。	余裕をもって勤務ができる環境づくり、利用者様の生活リズムに配慮をした支援を行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気をつけて支援行っている。	整容には気をつけて支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどを積極的に手伝って頂くよう努めている。 ホットプレートを使う際は楽しみながら調理できるようサポートを行う。	食事の準備や片付けなどを積極的に手伝って頂くよう努めている。 ホットプレートを使う際は楽しみながら調理できるようサポートを行う。	前もって作成された献立はなく、出勤した職員が利用者の希望を聞きながら、メニューを考え手作りにしています。食材はネット通販で調達しており、その他に必要な食材は買い出しをしています。ホットプレートを使って、利用者と一緒に好み焼き作りも行われています。栄養が偏らないよう、会社の管理栄養士との相談も随時実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は一日1500mlを目標にしている、栄養バランスについては年に一度ではあるが管理栄養士に監修を行って頂いている。	水分摂取量は一日1500mlを目標にしている、栄養バランスについては年に一度ではあるが管理栄養士に監修を行って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては歯科衛生士より月に1度助言を受けている。	口腔ケアについては歯科衛生士より月に1度助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けている、下剤の使用についても定期的に見直しを行い自然排便が出来るよう支援を行っている。 紙パンツやパッドの使用についても検討を重ね、使用しなくても良いようであれば布パンツへの切り替えを行っている。	トイレでの排泄を心掛けている、下剤の使用についても定期的に見直しを行い自然排便が出来るよう支援を行っている。 紙パンツやパッドの使用についても検討を重ね、使用しなくても良いようであれば布パンツへの切り替えを行っている。	排泄の自立を目指して、トイレでの排泄支援に尽力しています。また、パット、リハビリパンツから布パンツに移行できるよう、利用者一人ひとりの状態に合わせた支援が行われています。下剤を使用している利用者には、医師の判断で薬を止めて、自然排便に向けた取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は一日1500mlを目標にしている、繊維質の食べ物や乳製品を必要量提供できるように努めている。	水分摂取量は一日1500mlを目標にしている、繊維質の食べ物や乳製品を必要量提供できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日3人を目処で行っている、基本的にはスケジュールを組んで実施している。	入浴は1日3人を目処で行っている、基本的にはスケジュールを組んで実施している。	入浴を楽しく感じられるように、温度調整に留意すると共に、ゆず湯や入浴剤を使用しています。入浴時間は午前中に設定していますが、拒否のある利用者には午後の時間でアプローチして、入浴への動機づけを試みています。介助は利用者の希望に応じて、同性介助での対応が出来るようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望に沿った時間に休んで頂いている、眠れない訴えられる方がいらっしゃる際は温かい飲み物を提供している。	利用者様の希望に沿った時間に休んで頂いている、眠れない訴えられる方がいらっしゃる際は温かい飲み物を提供している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

はなまるホーム甲府山宮

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師のバックアップ体制が整っており、お薬のセット段階からトリプルチェックの管理を行っている。服薬後に症状の変化が見られた際にも薬剤師に確認を行い、薬剤師から医師への連絡と3者での連携が出来る。	薬剤師のバックアップ体制が整っており、お薬のセット段階からトリプルチェックの管理を行っている。服薬後に症状の変化が見られた際にも薬剤師に確認を行い、薬剤師から医師への連絡と3者での連携が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で役割を頼み、お手伝いして頂いたり好きなテレビをみたり音楽を聴いたり、個々で楽しみごとや気分転換も行っているが、皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。	日々の生活で役割を頼み、お手伝いして頂いたり好きなテレビをみたり音楽を聴いたり、個々で楽しみごとや気分転換も行っているが、皆さんと一緒にすることが好きな利用者様が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけるように支援している	コロナ禍前はご家族のご協力のもと外出や外泊をされている。それ以外では天気や時期を考慮しドライブのイベントも少数づつで実施している。短い時間でも外に出て、近隣の散歩や外気浴を行うよう努めている。	コロナ禍前はご家族のご協力のもと外出や外泊をされている。それ以外では天気や時期を考慮しドライブのイベントも少数づつで実施している。短い時間でも外に出て、近隣の散歩や外気浴を行うよう努めている。	その日の天候により、洗濯物を干して外気に触れたり、近くの神社に散歩をしています。また、ドライブにも出かけています。約半数の利用者は家族が外出に連れ出していますが、家族と疎遠になっている利用者に対しては職員が介入しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭のお預かりはしていないが、個々でお買い物をする際はお金をお渡しし支払いを行って頂く。	事業所では金銭のお預かりはしていないが、個々でお買い物をする際はお金をお渡しし支払いを行って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に了承を得たうえで電話をさせて頂いている。毎日電話をくださるご家族様もいらっしゃる。手紙をは出す事よりも頂くことが多い。	ご家族様に了承を得たうえで電話をさせて頂いている。毎日電話をくださるご家族様もいらっしゃる。手紙をは出す事よりも頂くことが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。月毎に季節を感じ取れるよう装飾物の作成を行っている。	特に刺激が強いものがなく混乱もない、日当たりがよく「今日もいい天気だね」と穏やかに環境的には落ち着いている。月毎に季節を感じ取れるよう装飾物の作成を行っている。	利用者の認知症状を把握して、1階には主に認知症の症状が高い利用者が生活しており、1階は共有空間よりも居室での過ごし方を好む利用者が生活しています。共有空間であるリビングに行くと、居心地よい過ごし方が送れるよう、利用者に対しての様々なアプローチが行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている。席順については混乱のないよう定期的に見直しを行っている。	共用空間では気の合った利用者様同士で過ごされている。席順については混乱のないよう定期的に見直しを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものをご家族様のお持ち頂いている。ベットの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室には馴染みのものをご家族様のお持ち頂いている。ベットの向きに関しては今までの起居動作を伺い同じ向きで起きられるようにセットしている。	居室には防災カーテン、クローゼット、ベッド、エアコンが備えられています。入居に際しては、危険な物を除いて、使い慣れた家具(椅子・ソファ・仏壇等)が持ち込まれています。その人にとって居心地よい居室となるよう、家族が入って模様替えをしたり、職員が利用者と相談して必要な物品等を揃えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように札を設置、居室が分かりやすいように表札を設置している。	トイレの場所が分かるように札を設置、居室が分かりやすいように表札を設置している。		